



患者と家族、一緒に立ち向かおう

がん治療で保坂氏講演

“心のケア”必要性強調

沖繩がん心のケア研究者や患者の家族への心
 究会による講演会「が
 ん患者と家族の心のケ
 ア」、医療なんでも相
 談会が23日午後、石垣
 市健康福祉センターで
 開かれた。聖路加国際
 病院精神腫瘍科・医長
 の保坂隆氏が、がん患
 者のケアの均てん化」を
 目「がん患者と家族のた
 めの「こころの処方



講演をした保坂隆氏＝23日午後、市健康福祉センター

告知をしない場合、
 精神症状の発現率が高
 くなること、チーム医
 療ができることを指
 摘し、保坂氏は「大事
 な事を自分に知らされ
 ず、他の人が知ってい
 ると患者は疑心暗鬼に
 なる。非告知は決して
 患者を守ることにな
 らない」と述べた。

また、チーム医療の
 形として「医療者だけ
 箋」と題して講演が
 行われた。
 講演では、日本のが
 ん告知率について触
 れ、告知が進まない理
 由を患者、家族、医師
 の立場から要因を説明
 した。

でなく、患者と家族と
 情報を共有し、一緒に
 病気に立ち向かうとい
 う形が必要」とした。
 がん患者の心理状態
 をはじめ、患者の家族
 に対するケアなどにつ
 いても紹介された。
 講演終了後、「医療
 なんでも相談会」が開
 かれたほか、夜には医
 療者を対象にした講
 演・事例検討会が行わ
 れた。